



多文化共生を進める上での地域と外国人市民の つながりについて

企画政策課

2026年8月27日 印西市国際化推進懇談会

調査の概要

調査のあらまし

- ・ 時期：令和6年8月1日～8月31日
- ・ 対象：18歳以上のすべての外国人市民（住民基本台帳）
- ・ 方法：郵送によるアンケート（WEB回答も可）
- ・ 言語：英語・中国語・ベトナム語・韓国語の4言語
- ・ 比較：令和元年度調査（n=643）

2,808

件を発送

901

件を回収

回収率 32.09%

前回（令和元年度）を大きく上回る回答数

回答した人（このテーマに関する主な特徴）

中国 36.7%

国籍で最多。次いでベトナム12.4%

30・40歳代 56.6%

子育て世代が中心

市内1～3年 28.7%

市内では新しい住民が最多

仕事のため 36.7%

転入理由の1位（+7.3pt）

一言でいうと 関心はある。でも、入口がない。

1

交流したい気持ちは
強まっている

「交流したいが、なかなかできない」は
19.0%から7.0%へ。心理的な壁は下がった
。

2

活動の存在が知られていない

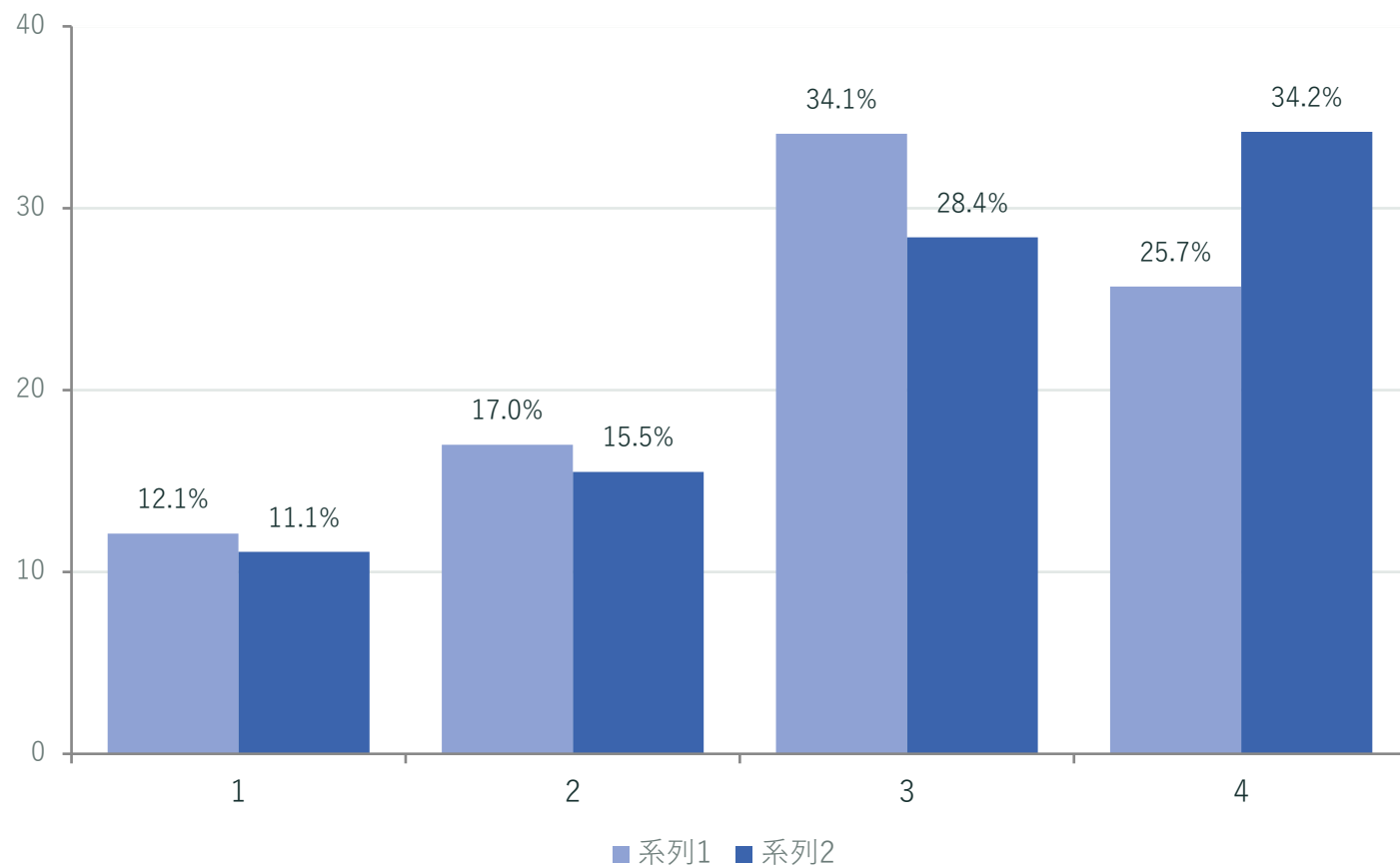
町内会などの活動を「知らない」が34.2%
で最多。前回より8.5ポイント増えた。

3

情報の届く道が
変わってしまった

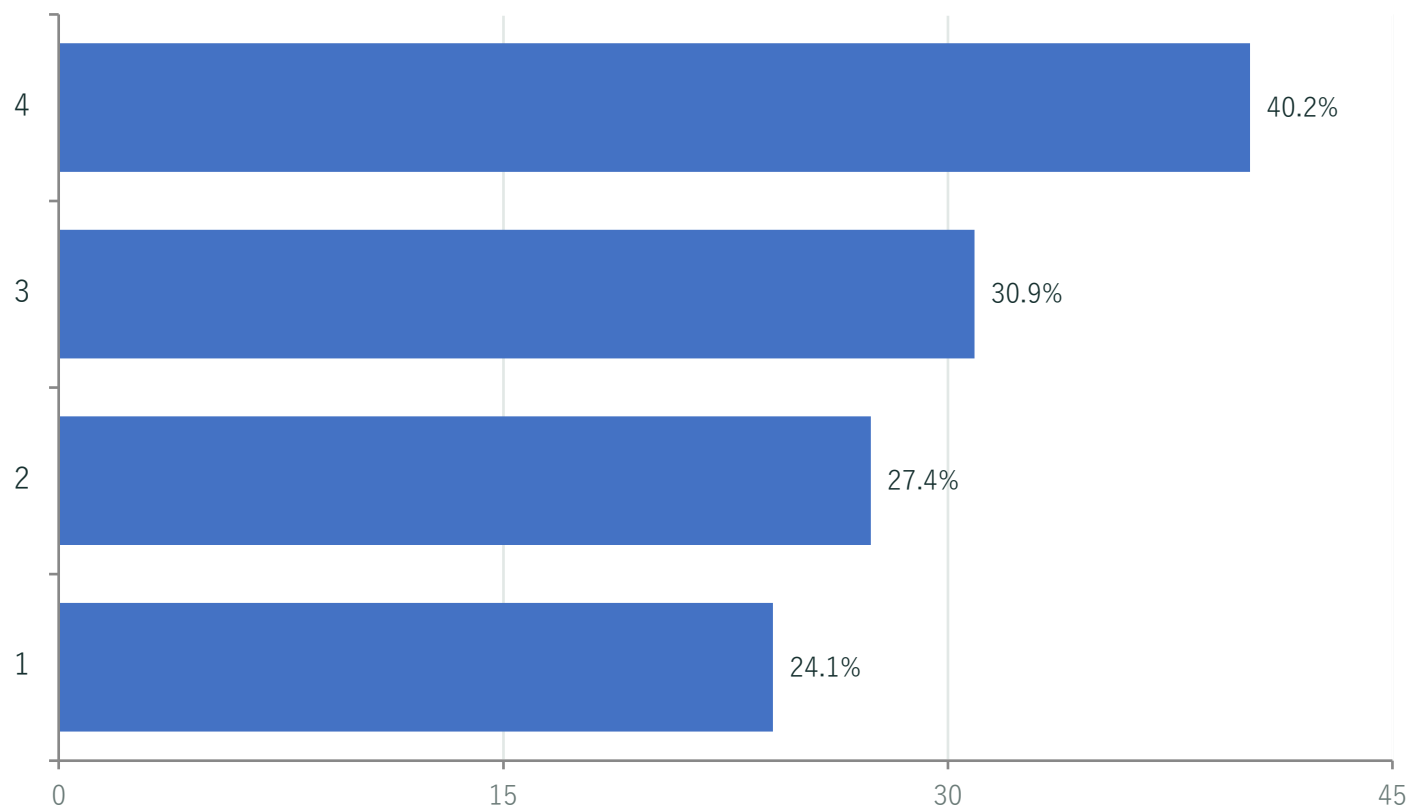
回覧板は7.2%まで半減。市ホームページが
49.7%に。地縁の経路が機能していない。

「活動があることを知らない」が最も多い



- 「活動を知らない」が25.7% → 34.2% (+ 8.5pt)
- 「都合があれば参加したい」は34.1% → 28.4% (▲5.7pt)
- この2つがほぼ同じ幅で逆に動いている
- 参加したい気持ちが消えたのではなく、知らない人に置き換わったと読める
- 防災訓練も「知らない」28.2%が最多。同じことが起きている

求めているのは「イベント」より「相談」と「生活情報」



交流の1位は「相談したい」

交流そのものが目的ではなく、暮らしの困りごとを解決する手段として、地域とのつながりが期待されている。

暮らしで必要と感ずること

59.9%

日本の習慣や
マナーを知ること

55.3%

日本人との
コミュニケーション

壁が「できない」から「知らない」に移った

「交流したいが、なかなかできない」

19.0% → 7.0%

令和元年

令和6年 (▲12.0ポイント)

心理的・言葉の壁は、この5年で下がった。

一方で変わっていないもの

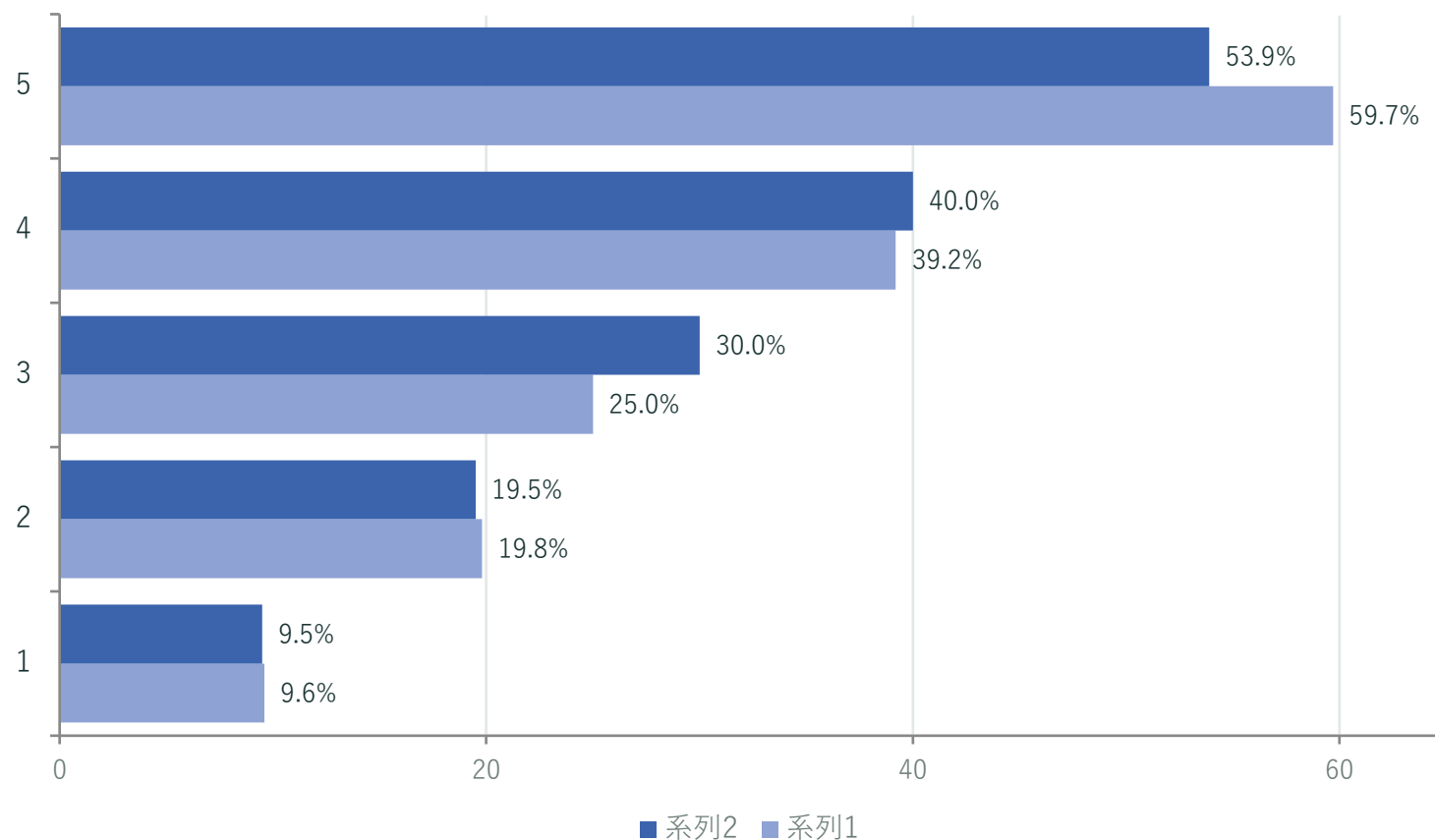
「特に交流したくない」

9.6% → 9.7%

交流を望まない層が増えたわけではない。
交流を諦めた層が増えたわけでもない。

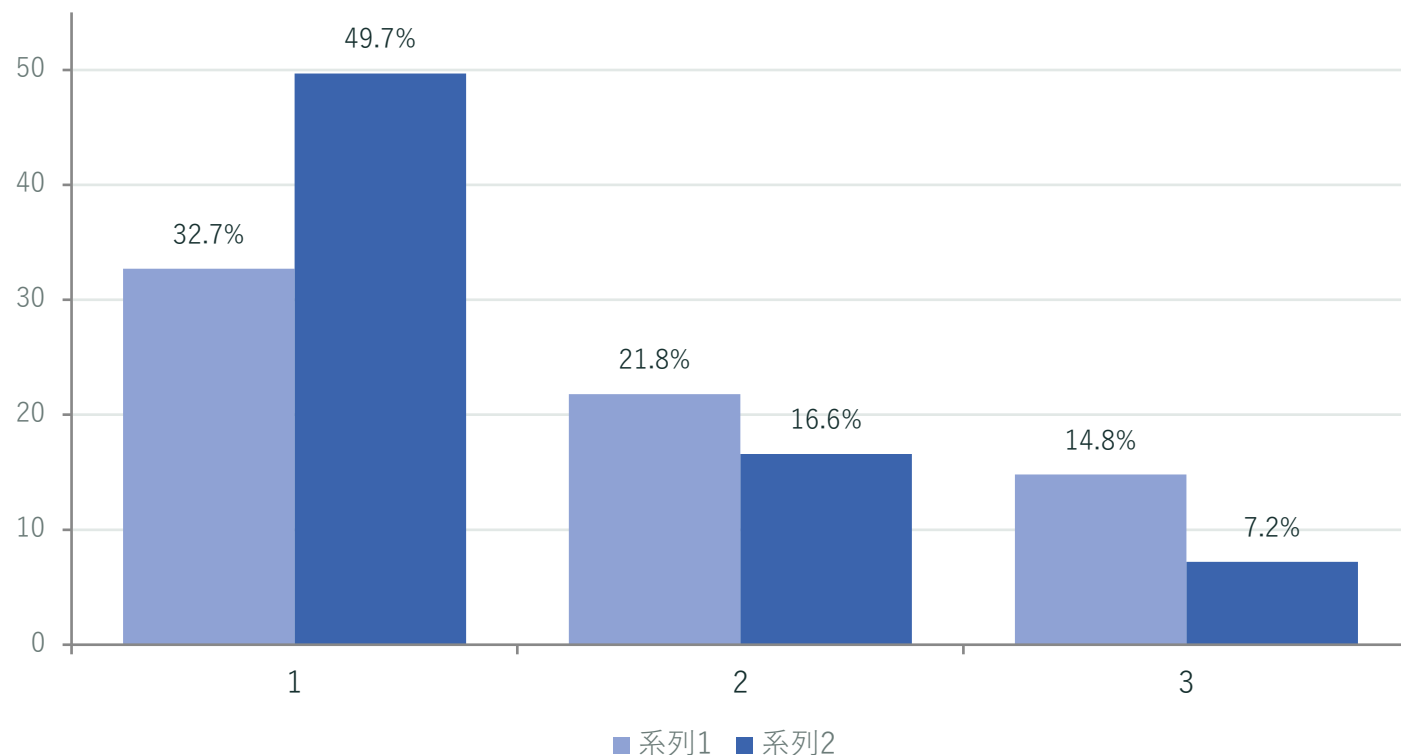
足りていないのは、市と地域の側が用意する「入口」と「情報」。

つながりは家族・友人が強く、地域と行政は薄い



- 相談は家族・友人など私的な関係が中心
- 市役所9.5%と、公的な窓口は受け皿になっていない
- 「日本に住む家族」は▲5.8pt、「日本人以外の友人・親戚」は+5.0pt
- 外国人同士の横のつながりが相対的に強まっている
- 他の外国人と交流する場は「会社・学校」46.2%（前回12.3%）

情報の届く道が、デジタルへ移った



ずれが起きている

町内会の情報は、いちばん読まれなくなった回覧板で流れている。
スライド4ページの「活動を知らない」34.2%は、この経路のずれによるものと推測できる。

印西市国際交流協会の活動内容

「知らないが、どんなことをしているか教えてほしい」
51.3%

認知は 22.4% → 31.9% (+9.5pt)

周知の努力は着実に効いている。

住みやすさの評価は高い。しかし「ずっと住む」は減っている

これから印西市にどのくらい住む予定か

「ずっと住む」

55.4% → 50.3%

「決まっていない」は 28.3% → 34.1% (+5.8pt)

なお、在住は長期化している

- 日本での居住10年以上 58.9%
- 市内居住4年以上の層は前回より増加
- 長く住む人が増えるなかでの意向低下

住環境への評価は非常に高い。

問7／問36 自由意見 n=901

自由意見から抜粋（一部要約）

「地域の活動に参加したいと思っていますが、最近どんな活動が予定されているか分かりません」

30歳代・フィリピン

「一度も印西市独自のイベントに参加したことがない。行事や活動をもっと知らせてほしい」

30歳代・中国

「家族が孤立しないよう、交流できる国際的なコミュニティの機会を作ってほしい」

40歳代・インド

「ボランティア活動に参加して地域を応援したいと思っている」

30歳代・ベトナム

「時々、地元の人々が私たちの存在を嫌がっているように感じ、少し悲しくなります」

20歳代・ベトナム

言語のグループごとに、課題の形が違う

ベトナム語

n=111

- 習慣・マナーを知りたい
85.6%
- 日本人の友だちがほしい
49.5%
- 市役所に相談する割合が最も低い
3.6%

つながりへの希望が最も強い層。
しかし公的な支援に届いていない。

中国語

n=365

- 近所に住む日本人とどのように交流したいか
「相談したい」
41.9%
- 子育てについて相談
27.4%
- 交流の場「教えてほしい」
26.0%

交流の機会を求める声がいちばん強い。

英語

n=346

- 交流の場は会社・学校
53.4%
- 相談相手は日本人の友人・親戚
44.2%
- 相対的に日本語を「よめる」割合が低い

職場が中心。窓口には比較的つながるが、文字の壁が大きい。

韓国語

n=79

- 相談相手は日本に住む家族
70.9%
- 必要なこと「特になし」
58.2%
- 各設問項目において、相対的に無回答が多い

暮らしは安定。一律の働きかけでは届きにくい。

5年間で変わったこと・変わらなかったこと

下がった	交流をはばむ心理的な壁	「交流したいができない」 19.0% → 7.0%
------	-------------	---------------------------

上がった	国際交流協会の認知	22.4% → 31.9% (+ 9.5pt)
------	-----------	-------------------------

増えた	活動を知らない人	25.7% → 34.2% (+ 8.5pt)
-----	----------	-------------------------

減った	地縁による情報の経路	回覧板 14.8% → 7.2%
-----	------------	------------------

変わらない	公的窓口が相談先になっていない	市役所 9.5%
-------	-----------------	----------

意見交換テーマ

1

地域活動の「入口」をどうつくるか

- ・ 町内会・自治会の案内を、回覧板以外のどの媒体から得ているか
- ・ 転入時（市役所の手続き窓口）を最初の接点として使えないか

など

2

「イベント」ではなく「相談」にどう応えられるか

- ・ 外国人同士の横のつながりを地域とつなぐ資源として活かさないか

など

3

「支えられる人」から「一緒に地域を担う人」へ

- ・ 防災訓練や祭り、清掃などで「参加者」ではなく「役割を持つ人」になるには
- ・ 町内会等の側にある不安やためらい（言葉、慣習の説明、負担）は何か

など